

求め続ける「あなたはどうなりたいのか」

～ホメオスタシスⅣ～

マタイ15章22節～28章

前回まで私たちが変えなければならぬことについて、話をしてきました。みなさんは変わってきましたか。今度は、変えてはならないことについてみなさればなりません。あるベテランの医師が、若い医師に「外来にお金持ちと貧しい人が来た時、どちらを先に診ますか？」尋ねました。医師がしなければならないことは、その人を救うためにできることをするというであり、金持ちか貧しいかという環境ではなく、病気の重い方を先に診るべきなのです。私たちの頭の中に前もってまかれた情報や現実ではなく、聖書では、大切にしなければならぬことは目的だと伝えてくれるのです。ですから、医師にとって大切なのは、目の前の患者の状況を見極めて手助けすることであるのです。そのベテランの医師は、若い医師に「医師がしなければならないことは、患者の内側を見ることだ」と伝えたのです。私たちが見なければならないことも、内側なのです。聖書では「なぜそれを行うか」という動機を大切にします。最初のスタートが大切です。聖書では土台と言っています。土台がずれるとなそうとすることがずれてくるからです。

開拓から13年たち、平穏になってきているという気がします。私たちの心は平穏な時に杜撰になっていきます。心が危機感を失い、目的と動機を失っていきます。危険です。新しいことを始める時はみんな怖いのです。しかし聖書では迷っている人がやろうと決心した時に、決心するまでにどうしてやろうかと考えて進んだ時には必ずうまくいくようになっていきます。目的が正しくてその動機が正しくて、その思いが真っ直ぐであれば絶対にうまくいくのです。ところが、動機や目的や思いがずれているとうまくいきません。しかし、聖書には動機も目的も思いも正しい人はいないと書いています。義人は一人もいないのです。でも、教会に来ている内にだんだん正しくなっていくのです。ところが内側にあるもう一人の自分は少しもぐずれさせようと必死です。少しずつずれていくのです。あなたは心を蝕まれているのですか。ある世界の富豪は、30代で億万長者になり、40代後半には世界一になりました。51歳で余命一年と言われました。その病院に『自らがしてほしいことを誰かにしてあげなさい』と書いてありました。そこへ貧しい二人の人が病院に来ました。しかし彼らは貧しくて治療が受けられませんでした。アメリカはお金がないと医療が受けられないからです。そこで、その億万長者は、その言葉の通り、彼らの治療費を全部出してあげました。その後それをずっと続けることで、余命1年だった命が95歳まで生き続けたのです。彼は50代までの人生は全く幸せとは言えなかったが、その後の人生は幸せの一言に尽きると言ったそうです。生き方を変えることで、自らの心の幸せを変えることが出来たのです。目標を変えることで価値観を変えることが出来ます。今までと同じ目線で再建することは出来ません。なぜなら今までその目線で壊してきたからです。野の蛇や空の鳥たちは自らの生き方を変えることは出来ないが、人間だけはそれが出来るのです。そんな中で神様は、どんな時も変えてはならないことを求め続けるという方法で人々に示しました。

あなたはどうなりたいですか。あなたは本当に変わりたいですか。この教会は変わりたい方、その人に与えられた人生を通してあなたに伝えられたように、私も伝えるという方が集まる場所です。受けたものは与えられなければならないと死海になってしまいます。ガリラヤ湖はヨルダン川で受けたものを次に流していきませんが、死海は受けるばかりです。だから死海は見た目には美しいが、生物はおらず死んでいます。そんな死の海になるか、それとも生きるか。私はガリラヤ湖になりたいと思います。神様がなさることは、してもらったことを返すということです。真っ暗闇の馬小屋に生まれた日からろうそくの火が灯されていって、そのろうそくの火によってあなたのろうそくがつかの間の。周りを照らそうと思っただけではありませんが、そのろうそくの火は、見えなかったあの人の道を見せるようになるのです。そしてその人につけられたろうそくも、また次の人に伝えられていきます。神様が選ばれたのはこのやり方です。一つの電気で照らすのではなく、皆の電気で照らすのが神様です。心の底に光があると、将来が見えるようになるのです。だから平安に基づく安心があるのです。しかし、平安とは、得ようと思えて得られるものではありません。

■【マタイ15章22節～28章】

15章の1節～始まるストーリーは、3節に書かれているように、自分たちの言い伝えのために神の戒めを犯すのかという部分から始まります。群集やパリサイ人たちが等、ユダヤ人の人たちが守ってきたならしを守らなければならないという人がたくさんいました。自分たちの言い伝えのために神の戒めをおかすのかという疑問です。これは私たちの人生に語られるテーマです。自分たちの家の習慣、あなたが両親からずっと言われてきたルール、今まで自分が習ってきた当たり前のこと、生まれて育つ中で培われた様々な感覚。この価値観と聖書は絶えず対立しています。多くの人には、聖書のルールを自分たちの価値観にうまく融合させようとしています。だからイエス様も彼らのやり方を見せたのです。女がやってきて、イエス様に私の娘が狂っている、だから何とかしてくださいと騒ぎました。その

時のイエス様は無視しました。沈黙があったのです。向上性というのは、ホメオスタシスという言葉で、神の国は何によって成り立っていますか。という例えです。向上性とは神の部分に似ている部分を保つとすることです。私たちの身体は神の姿に似よう・戻ろうとしているのです。身体の器官はあなたが意識しなくてもきちんと働いています。神様の姿に作られた姿で保とうとしているのです。この女性も娘が病気になる、神様の前に願ったけれどもイエス様の答えは無視でした。でもイエス様の心の中には私たちにこう伝えたかったのです。いつも祈るべきであり失望してはならないことをあなた方に知らせるために。素直な姿が神様にとって「あなたの信仰は素晴らしい」ということにつながっていきます。成熟されて美しく立派に見える彼らに対して、イエス様は偽善者たちと言いました。あなたが言っていることは正しいが、あなたのやっていることはあなたの家の教えを守る為に神の恵みを無駄にしていると言われたのです。変えてはならないことを変えてはならない。それは求める姿です。あなたが願ってうまくいかないことが起ります。無視されています。思い通りに行かないことが起きた時、神様は私たちに将来にわたる栄光を表そうとします。今祈っていて、思い通りにならないと思うことはありませんか。聖書では、思い通りにいかないとうまくいくのです。思ったとおりにならないと、大体足をすくわれます。元々私はアフリカに学校を建てるというビジョンがありました。その前に日本の子どもたちの心の貧困を解決し、その子どもたちが将来アフリカに行って子ども達を育てるというプロジェクトです。これも思うようにならないところから始まりました。神様のなさることはうまくいかないときに働くのです。うまくいかないときがチャンスです。

■ 拒絶『イスラエルのひつじ以外のところには遣わされておられません』

神様は次に拒絶の時間を与えます。これは彼女に答えたわけではなく弟子に言ったのです。彼女は無視の上に拒絶されてしまいました。ところがこの女性は、その瞬間から娘が治ったのです。人生にはショックな出来事がよく起ります。ところがこのショックな出来事は、人を考えさせ、回復させてくれます。両親はよいものも悪いものもたくさん与えますが、聖書では両親を敬えと書いています。神様は誰かを通して、考えなければならないことを伝えてくれるのです。生きて働くのです。うまくいかないときにあきらめてはいけません。みなさんが願ってうまくいかないことがあったら、それは必ず祝福されます。しかしそれは時が必要で、あなたがそれを受け取った時にだめになるのなら、神様は絶対に与えません。なぜなら一時あなたが喜ぶことを神様は求めないからです。だからキリスト教にはご利益はありません。でも結果、祝福されるのです。これが宗教の違いです。崇めることで何かを：得られるものではないからです。ところがふたをあけてみるとたくさんの恵みが私たちに溢れています。神様が先に人間を愛したからです。神様が願っているのはあなたの求める姿です。求める心になるには、本当に心が向かないといけません。みなさんは、今本当に神様に心が向いているでしょうか。この聖書が分厚い理由を考えてみてください。この中に書かれている、しなくていいことをしないためです。聖書は良い教えが書いてあるのではなく、人の生き様を書いているのです。それを覚えてほしいです。聖書がなぜあるかは、あなたがこの中で生きた人と正しい人の真似が出来、間違った人の真似をしないためです。あなたがどう生きれば良いか書いてあります。彼女はイエスさまに拒絶されてもあきらめず、「主よ私をお助けください。」と言いました。イエス様は人々に求める姿をイスラエルの人々に見せ、伝えたかったのです。同じような話がルカにも出てきます。イエス様は命をかけてあなたを愛したからあなたも私の元に帰ってこいと伝えたいのです。でもその姿が中途半端なときには、神様は時には沈黙や拒絶されることもあります。そして最後には絶望までいくのです。イエス様も彼女に最後は絶望を与えました。願いが叫べられるプロセスを示す為にイエス様はそうされたのです。中途半端な挫折ではだめなのです。自分の力でやろうとすると、自分に対する栄光がほしくなってしまいます。だから神様は私たちに3つのプロセスを教えます。子育てと同じです。神様は彼女にとことん求める姿勢を与えて、切に求められていることを理解したうえで、向き合う姿を人々に見せました。神様を求めるというのは命がけでなければならないのです。イエス様は最後彼女に「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われました。信じ抜くことの大切さを教えてくれたのです。私たちは信じ抜き、願い続けなければならない。神様は求めるものに奇跡を与えて変えてくれます。私たちが変えてはならないものは神様を求める姿です。ぜひ求め続けてください。人間的な目線と価値観を捨てて神様を捜し求めましょう。

(要約者: 浅野 恵子)

(1月21日)